

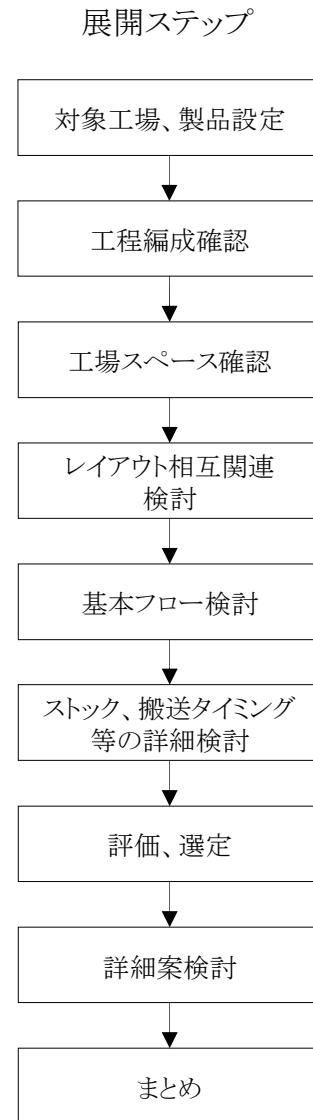
## 7.7 構内物流改善

工場での物流改善は、生産プロセスに沿って、工場内の物流レイアウトと物流動線を仮説することから検討していきます。その際には、設備や工程間の相互の関連性を検討し、近接したいもの、離したい物を明確にして、レイアウトの検討を行います。

基本の物流レイアウトをもとに、搬送条件を確認しつつ、プロセス別物流システム検討を行なっていきます。ここでは物流頻度や製品サイズをもとに、効率の上る方向を検討していきます。

その際にストックの発生する場所では、ストックエリア検討を行い、必要なスペースの確保を検討していきます。さらに搬送タイミングや搬送距離、搬送方法を検討し、具体的な作業の内容を検討していきます。これらの手順を図に示します。

このようなレイアウトを考える際には、①工程や設備の相互関連性をもとに適切な配置（例、振動や騒音から話したいものや、作業上から近づけたい設備の適正な配置）②作業性のよい十分な作業スペース確保 ③流れを考えた停滞や戻りの少ない配置 ④三次元空間の活用 ⑤災害の防止と安全の確保 ⑥柔軟な配置変更の可能性のように ⑦管理監督者からみた管理の容易な配置 ⑧保守、交換、サービスの容易なスペース確保 ⑨災害時の避難、対策を考えた配置 ⑩切削屑等の排出、エアコン等の風の通り易さ等々を配慮して検討すると良いでしょう。



## 物流改善概要

